

# 3月・4月の管理ポイント

生育期に向けてベントグラスが育ちやすい環境を整えましょう

生育期に向けて  
土壌水分を整えましょう

## レボ (REVO)

冬の間は代謝や生理反応が低いので、ダメージが見えにくく見逃されがちですが、長期の乾燥で土壌の撥水性が強くなりドライ症状が発生して(しやすくなっています。生育適期に土壌水分が最適な状態になるように、土壌の水管理に気を配りましょう。レボは、表層土壌の水分を低めに保つので土壌中酸素の割合が高くなり、根が生育しやすい土壌環境を作ります。定期散布すると安心です。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回

乾燥・過湿から  
グリーンを守りましょう

## プライマーセレクト

冬の間土壌は乾燥し撥水性が強くなっています。プライマーセレクト処理で、撥水性が軽減し根圏に水を満遍なく行き渡らせましょう。プライマーセレクトは、生育に適した土壌水分を保持する働きがあるので、定期散布をして効果を常に持続させると安心です。レボよりも土壌表層の水分を少し高めに保ちます。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回

フースター(導入剤)として

## グリーンシナジー

ベントが活動を始めたらいち早く養分を吸収させたいのですが、養分を与えてもベント自体の吸収力がまだ弱い冬越しした土壌は撥水性が強くて、なかなか根圏まで届かず無駄になってしまいがちです。

グリーンシナジーは根圏土壌の隅々まで水を届ける働きがあるので、肥料、ミネラル、糖、アミノ酸…などと混用すれば、水と一緒に養分も根圏の隅々まで行き渡ります。

与えた養分を無駄なくベントに届けるには、グリーンシナジーのご使用がお勧めです。

使用量：1-2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：100ml-1ℓ/m<sup>2</sup> 使用方法：資材の散布時にタンクミックス

光合成低下中のエネルギー補給

## グリーンメカ

ベントの活動が始まり、エネルギーが沢山必要になる時期ですが、まだまだ光合成が停滞しているためエネルギー不足状態です。光合成から供給されるエネルギーが足りないと、貯蔵エネルギーを使ってしまいスカスカのベントになってしまいます。できるだけ貯蔵エネルギーを使い込まないように、糖、アミノ酸をたっぷり含んだグリーンメカを処理し出来るだけ早めに代謝や光合成、生理活動を回復させましょう。グリーンメカにはミネラルもたっぷり入っているので徒長予防にもなります。

使用量：2-10ml/m<sup>2</sup> 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>

冬間に溜まったサッチを  
除去しましょう

## サッチ・マネージャー

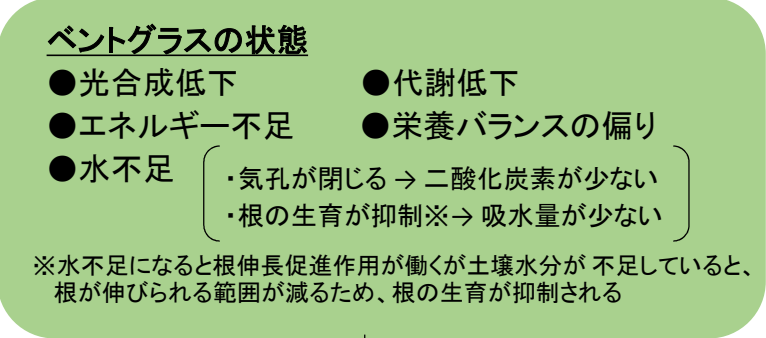
冬間に有機物が溜まっています。サッチ・マネージャーで分解を促進させましょう。

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある有用菌を選抜した微生物資材です。様々な土壌環境に適応できるよう、16種類の有用菌(乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種)で構成されています。製剤1g当たり約400億個の菌配合で土壌中でも安定した効果が期待できます。

使用量：ラフ・FW 0.1-0.2g/m<sup>2</sup> グリーン 0.5g/m<sup>2</sup> 散布水量 0.2~0.5ℓ/m<sup>2</sup>

冬の間休憩していたベントグラスが動き始めています。  
本格的な生育期が訪れる前に、ベントグラスが生育しやすい環境を整えましょう。

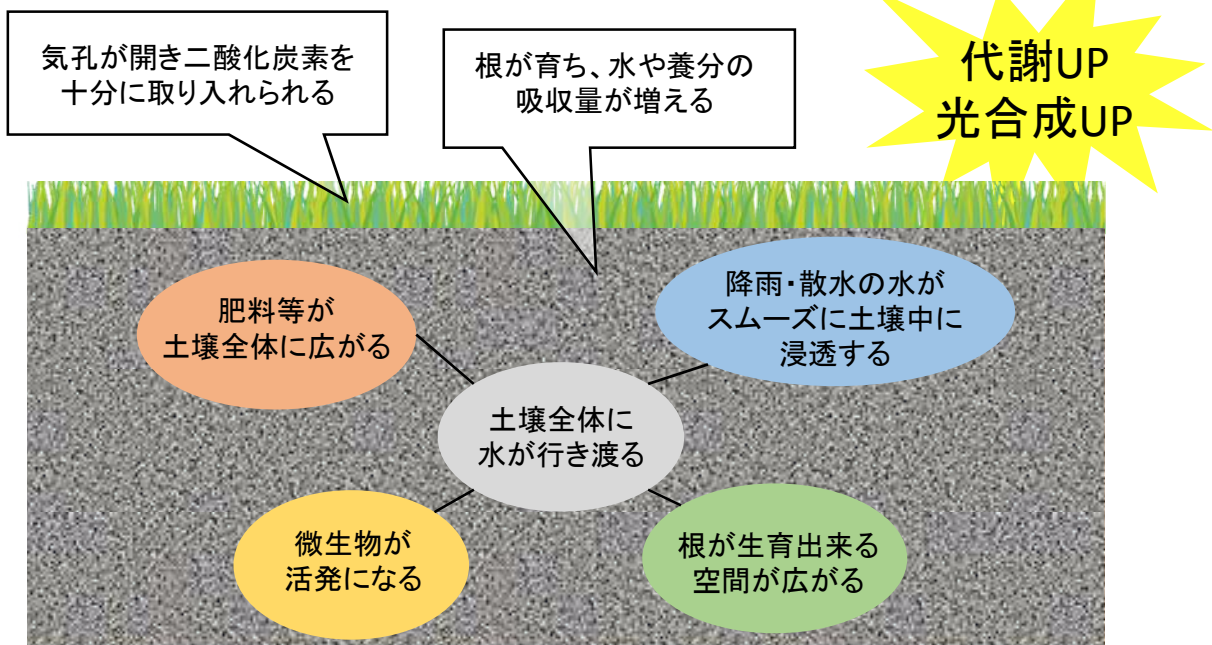
## ● 冬を越した土壌とベントグラスの状態



水不足になると光合成の材料が不足し光合成が活発化できない

土壌の水不足を解消すれば生育に適した環境へ移行し始めます

## ● 土壌の水不足を解消し土壌水分環境を整えると改善すること



土壌水分の状態を改善することで  
ベントグラスの代謝・光合成が活発になり生育期の準備が整います

「撥水を軽減し土壌への水の浸透を改善する界面活性剤」、「土壌中の有機物の分解を促進する資材」  
「足りない栄養を補う資材」等 土壌環境を整える資材が沢山あります。上手く活用し、

本格的な生育期が訪れる前に、ベントグラスが最大限生育出来る環境を整えましょう